

実践記録

87

シリーズ

「妙高青少年リーダーズ研修会」

～広域連携・高校生の参画～

田上町公民館 主査 諸橋 弘樹

はじめに

田上町公民館では、平成15年度から地域で活躍できる青少年リーダーを養成しようと、夏休み期間を活用し「妙高青少年リーダーズ研修会」を開催しています。これは、国立妙高少年自然の家を会場に、「妙高アドベンチャープログラム」などのグループワークや共同生活を通じ、自立・協力協調・信頼関係づくりに主眼をおいた事業です。平成16年度は、小学生23人、中学生18人の計41人が参加しました。

広域連携事業

この事業の特徴の一つは、広域連携事業としての位置づけです。当時、旧下田村と田上町の2町村に派遣されていた、派遣社会教育主事の樋口先生の働きかけにより、旧下田村中央公民館と合同で開催することができました。合同開催はこれが初めての試みで、事務が複雑になるという欠点もありましたが、準備や運営の負担を分けることができるという利点もありました。最もメリットと感じたことは、異年齢交流に加え、2町村の子ども達が集うことにより、日常生活とは全く異なる環境をつくることができたことです。「普段は自分の意見をあまり言えなかったのに、今回の研修会で意見をはっきりと言える自分がいることに気付いた(参加者の感想)」。非日常的な環境の中、新たな自分の一面を発見できた参加者もいました。

ボランティアスタッフの登用

当公民館では、御多分に洩れず中高校生の参加が少ない状況でした。そこで、この事業では中高校生にも参加してもらおうと、小学5年生から高校生までを対象として開催しました。平成15年度は、中学生の参加はあったものの高校生の参加は皆無。そこで、16年度は高校生をスタッフとして登用し、とにかく事業に関わってもらおうという発想から、高校生～概ね20歳の青年を対象に、有償のボランティアスタッフを募集しました。その結果、高校生7人、大学生1人、専門学校生1人の計9人が応募し、スタッフとして事業に参画してもらいました。ボラン

ティアスタッフの役割は、初日の「緊張を解きほぐすゲーム」と最終日の活動(半日)の企画運営、子ども達の生活面での支援、集合や解散の号令、活動用具の準備、ゴミの始末など。つまり、中心的な活動と事務以外はすべてボランティアスタッフの仕事として位置づけました。

そこで、ボランティアスタッフ育成のため、事前研修会を1泊2日の日程で開催。1日目は活動を実際に体験し、2日目は活動の企画や役割分担を決めるというのが主な流れ。私自身、初めて接する年齢層であり、不安も多分にありましたが、事前研修を通じて「自分達が企画運営をする」という意識が生まれ、熱心に、そして楽しい事前研修となり、とても有意義なものとなりました。その後、当初予定はしていなかった企画会議を、ボランティアスタッフの発案で数回にわたり開催。最後まで不安を隠せない様子でしたが、いざ研修会本番を迎えると、見事なリーダーシップを発揮してくれました。

このボランティアスタッフの登用については、事前研修など準備段階ではかなりの労力を使いましたが、研修会当日の指導が行き届き最大の効果が得られたこと、小学生から大学生までという異年齢交流が図られることなど、大きなメリットがありました。そして、公民館としては、なんといっても高校生や大学生が積極的に公民館事業に関わってくれることが本当にうれしく感じました。「私が高校生になったら、ぜひボランティアスタッフとして参加する」という中学生も生まれ、子ども達にも大きな影響を与えたことが実感できました。

まとめ

今回は、広域連携とボランティアスタッフの登用について述べさせていただきましたが、この事業の一番の目的は「妙高アドベンチャープログラム(MA)」にあります。参加者を始めボランティアスタッフにおいても、MAにより多くの気づきがありました。

MAについては、今後「公民館月報」で取り上げられることを期待しつつペンを置きます。